



写真1 石狩海岸の漁業(一)



写真3 石狩鮭漁業3(北海道大学附属図書館所蔵)

大正7(1918)年からで、それまでは下三分の一だったからです。これでおよその発行時期が分かるのです。

これらの写真は、大正から昭和初期に道庁が刊行した『北海道史』編集の際に資料として集められたものです。絵はがきの表には「道庁発行」とあるかもしれません。そこで、この2枚の画像データを提供していただいた方に表面はどのようなものか聞いてみました。すると、画像

データを当館に提供した後、絵はがきは事情があつて全て処分したとのことでした。

表面がどうなっていたかを知るすべが失われてしまったのはとても残念ですが、この仕事をしているとままたることなのです。それに同じものが残っていないとも限りません。皆さんの中でこの絵はがきをお持ちの方は資料館にご二報ください。表面だけ見せていただければ結構ですから。

(工藤義衛 ともえ)



石狩市学芸員
工藤義衛 Tomoe Kudo

専門分野は考古学と風俗史。石狩独特の文化を研究する一環で石狩の食を代表する「石狩鍋」の歴史やルーツについても調査を行う。

いしかり 博物誌 143

絵はがきの表側

テーマ展
「絵はがきから観る戦前の石狩」
期間:4/28(木)~5/30(月)
場所:いしかり砂丘の風資料館
(22ページをご覧ください)

4月末から始まるテーマ展で石狩の絵はがきを取り上げるため、資料館で収集したもののほか市内の郷土史家が所有しているものを含め、約百数十点を集めました。実物もあれば画像データを提供していただいたものもあります。

そのなかで2点の絵はがきに目が留まりました。どちらも石狩浜の鮭漁を題材にした写真です(写真1、2)。浜での漁業風景を題材にしたものはほかにもありますが、この2点は印刷が良

く文字が明瞭で、英文の説明まであります。

実はこの2点によく似た写真が北海道大学にあります。比べてみると全く同じ写真ではありませんが、連続して撮ったとしか考えられない写真です(写真3、4)。

こうなると表面が見たくなりました。表面には発行者が印刷されているかもしれません。また、宛名欄と通信欄を区別する線がどこに引かれているかも知りたい点でした。真ん中になるのは



写真2 北海道石狩海岸の漁業実況
(彩色あり)



写真4 石狩鮭漁業1
(北海道大学附属図書館所蔵)



石狩市街の一部(大正末期~昭和初期)

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。